

経済建設常任委員会視察報告書

経済建設常任委員長 柴田 雅也

1 日 に ち	①令和2年 8月18日(火) 13:30～15:30 ②令和2年10月27日(火) 9:00～16:00 ③令和2年11月13日(金) 13:00～17:15
2 視 察 先	①多治見市陶磁器意匠研究所 ②(株)ヤマカ陶料、渡辺製陶、市原製型所、(有)小木曾、(株)丸朝製陶所、(株)セラメッセ、(有)ヤナ原タイル ③市役所本庁舎西側歩道、若松町及び大藪町(ラウンドアバウト)、小名田町(県道多治見八百津線小名田町T字交差点～小名田町長瀬テクノパーク入口交差点)滝呂台配水池、池田下水処理場
3 参 加 者	【委員長】柴田雅也【副委員長】城處裕二【委員】石田浩司、井上あけみ、松浦利実、古庄修一、寺島芳枝【経済部長】長江信行①②【建設部長】知原賢治③【水道部長】村瀬正一③
4 調 査 内 容	1. 経済分野テーマ：コロナ禍の地場産業の状況と将来について ①美濃焼業界との連携について多治見市陶磁器意匠研究所視察 ②コロナ禍の地場産業の状況について現場視察 2. 建設分野テーマ：本市のインフラ保全と整備について ③市内道路施設及び上下水道施設の整備状況等の視察
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	【主な質疑】 1. 経済分野 ・原料となる土の確保の問題をどうするのか？→土の問題は行政のみならず、業界も真剣に取り組んでいる。東濃3市(多治見、土岐、瑞浪)、研究施設、メーカー、商社、土の業者などで構成される「美濃焼みらい会議」にて、既に各地でボーリング調査も行っている。今まで捨てていた土を何とか配合によって使えるよう、ブレンドして原土とする研究も始めている。 2. 建設分野 ・大藪町のラウンドアバウトについては、「とまれ」の表示があっても停車しない。この交差点改良は地元からの要望だが、ほかにもやるべき場所があるのではないかと見通しのいい交差点だが、通行者が左右をあまり見ていないことから事故が多いため、警察の協力も得ながら対策を講じる。当初は地元から、信号交差点設置の要望もあったが、交通量は多くないため、ラウンドアバウトの交差点改良を進めている。 ・池田下水処理場の更新計画は？→計画に基づき、定期的に修繕を行っており、特に機械設備や電気設備は突然壊れる場合があるため、毎日点検を行い、年数も見ながら定期的に更新する。国庫補助金等を利用し、下水道使用料を一気に値上げすることがないように、計画的に事業を進める。

5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等

【所感等】

1. 経済分野

コロナ禍の地場産業の状況と将来について コロナ禍において陶磁器産業界は構造的な課題に加え、原材料の希少化、高騰、現場の高齢化による廃業リスクなど多岐な問題を抱えていることを実感した。美濃焼の伝統を守っていくには世代交代、技術の継承が不可欠である。陶磁器意匠研究所の先端技術による高付加価値な新商品の開発やe コマース等での販路拡大などにより、陶磁器業界が川上から川下まで好循環と成るように行政としての支援は重要である。

2. 建設分野

本市のインフラ保全と整備について、ラウンドアバウト等道路改良事業に於いて、用地買収の難しさがある。若松町に於いては事業の途中とはいえ買収済みの部分改良でも安全に左折ができるなど成果が出ている。上下水道についてはライフラインの根幹であり、市民生活に欠くべからずものである。稼働させながらの更新の難しさについて理解した上で、計画的かつ適切な設備更新、修繕を進めていく必要がある。

6 写 真 等



【陶磁器意匠研究所 3Dスキャナー実働見学】



【(有)小木曾 成型工程視察】



【本庁舎西口インターロッキング設置歩道視察】



【大藪町ラウンドアバウト現地視察】



【滝呂台配水池現地視察】



【池田下水処理場現地視察】